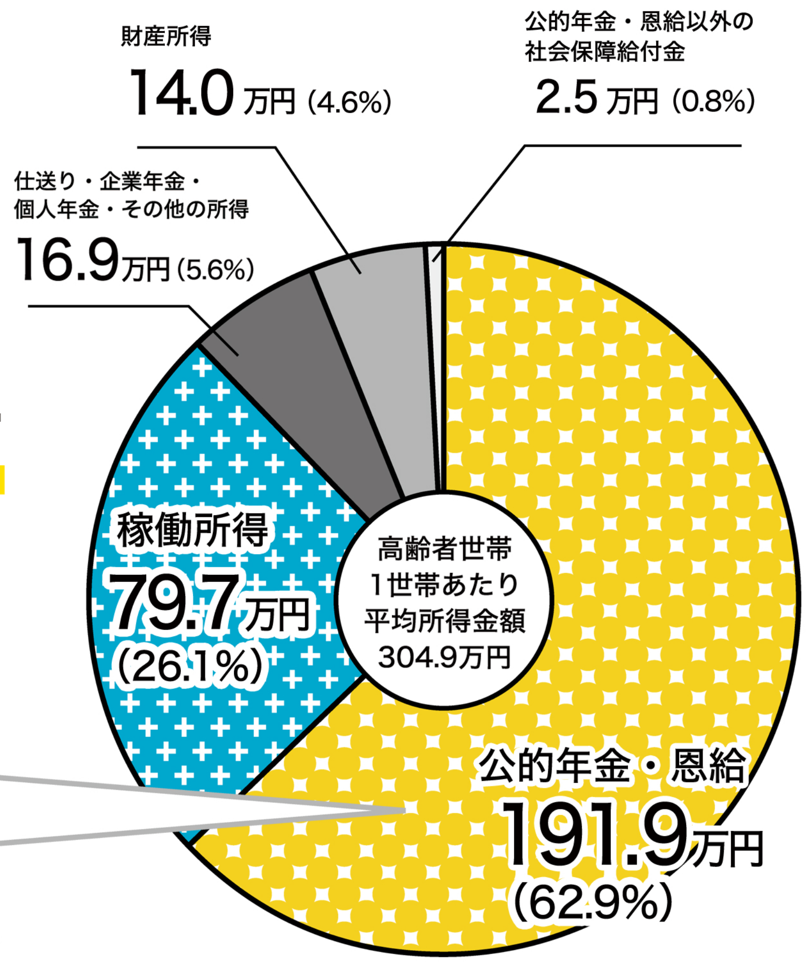
公的年金は
多くの方の
生活を
支えています



(資料)2023年国民生活基礎調査(厚生労働省)
(注)四捨五入による端数処理の関係で、内訳の合計が総計の数値と一致しない場合がある。

年金は高齢者世帯の収入の6割

いっしょに検証! 公的年金
～年金の仕組みと将来～

詳しくは、マンガで分かりやすく解説したこちらのホームページをご覧ください。
https://www.mhlw.go.jp/nenkinkenshou/

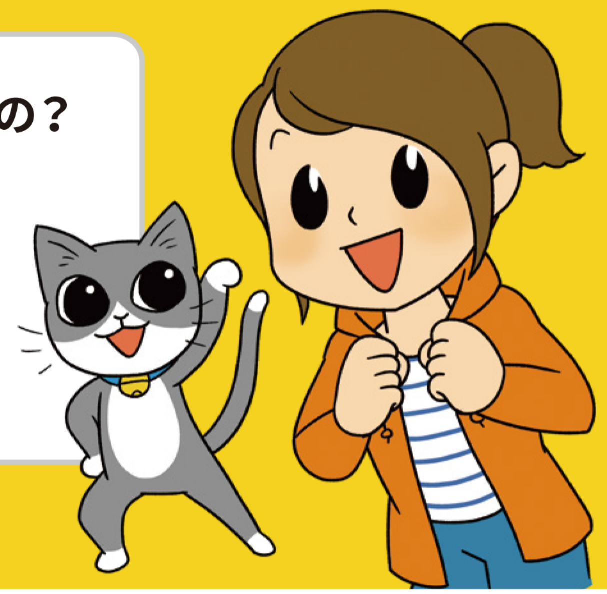
※デバイスによっては読み取れない場合があります

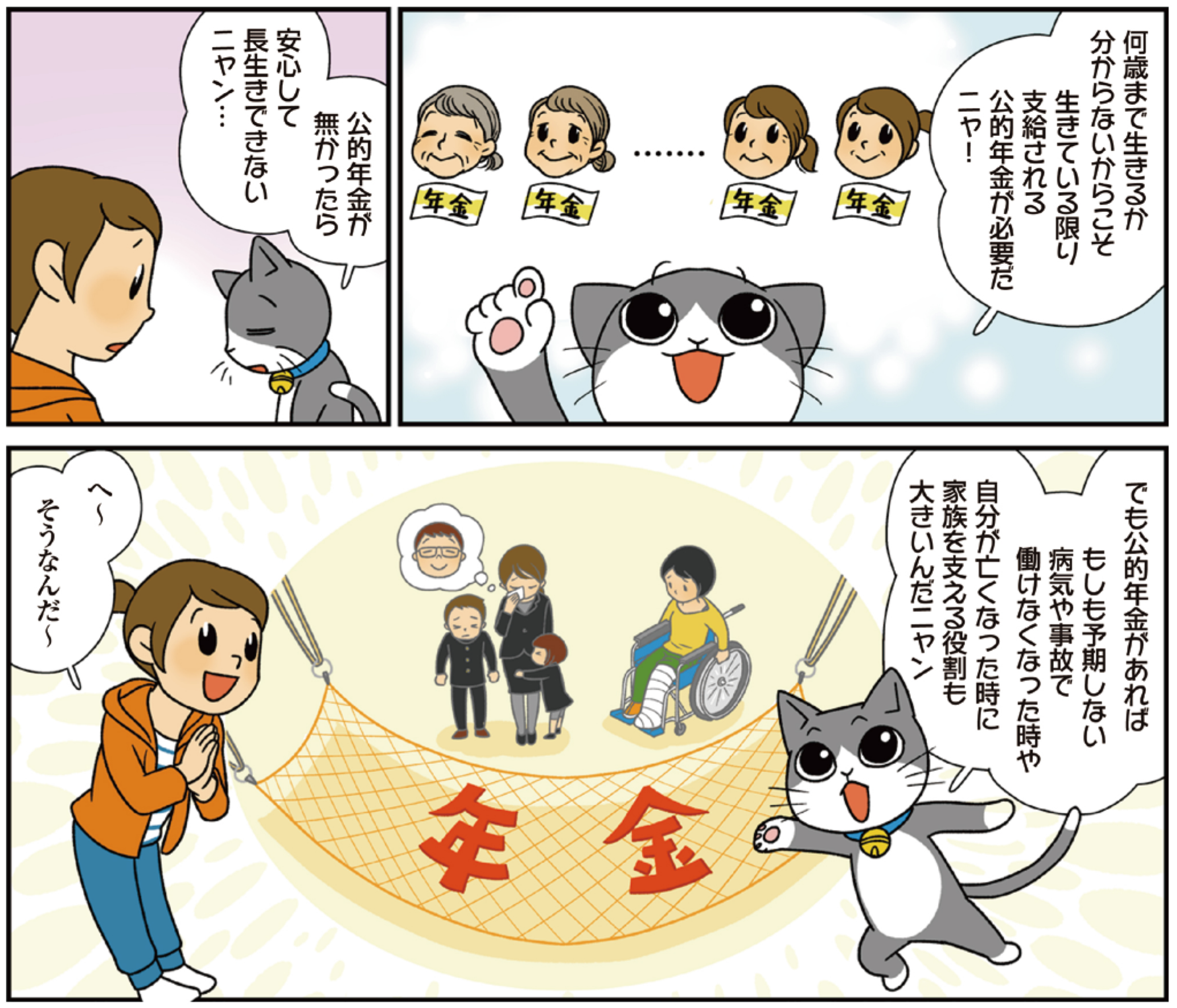
ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

作成：令和7年

公的年金の意義

公的年金ってなんのためにあるの？
老後の備え？
実は、それだけではないのです。
なぜ公的年金が必要なのか、
その目的と意義をご説明します。





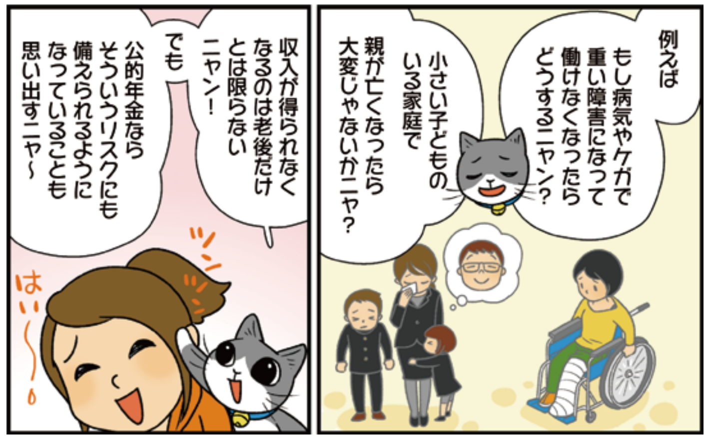
公的年金って、なんのためにあるの？

人生には、いろいろな「もしもの時」があります。病気やけが、死亡など……
そうした「もしもの時」に備えるため、民間の生命保険や医療保険に加入したり、貯蓄をする方もたくさんいることでしょう。
ですが、その「もしもの時」がいつ訪れるのか、どれだけの期間に及ぶのかは、誰にもわかりません。
すべての人が、あらゆる事態を予測して準備することは困難なのです。
すべての人がこうした事態に備えられるようにしたのが、公的年金です。

++

人生のリスク、想定外のリスクとは

高齢によって働けなくなること以外にも、なんらかの事情で働けなくなったり、それまでの収入がなくなってしまうことは、人生において大きなリスクです。
公的年金では、以下のようなリスクに対応した保障を行っています。



老齢
高齢で、働くことができなくなった

障害
けがや病気などで障害を負って、働けなくなった

死亡
家計の担い手が亡くなってしまい、収入が得られなくなった

老齢年金	障害年金	遺族年金
65歳から終身給付を受けることができる年金です。「年金」というと、この老齢年金を指す場合が多いです。	加入中、病気やけがなどで一定の障害を負った場合に受給できます。また、20歳前の障害にも対応しています。	年金受給者や被保険者が亡くなった場合、その遺族が受給できる年金です。

なにが違うの？公的年金と貯金

公的年金は、一般的に老後の生活資金として考えられていますが、広い意味での保険制度にあたります。老後に備えて個人で貯蓄した場合と比べ、以下のような特徴があります。

1 生涯にわたって受給できる

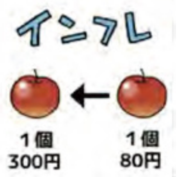
自分が何歳まで生きるか、死ぬまでにいくら必要なのかは誰にもわかりません。
このため、貯金をしていても、生きている間に使い切ってしまうかもしれません。
それに対して公的年金は、亡くなるまで受給できる仕組みです。長生きして貯金がなくなったらどうしよう……..という心配をせず、安心して暮らしていけるのです。

2 物価変動や賃金上昇など、経済の変化に比較的強い

物価や賃金が上がると、貯金の価値が目減りしてしまうかもしれません。
公的年金は、そのときの物価や現役世代の賃金などに応じて、どのくらい給付されるかが決まります。
このため、物価が上がるインフレなどに比較的強いと言われています。

価値の目減りとは

たとえば短期間で急な物価の上昇（インフレ）が起こった場合



貯金額で買えるものの量が減ってしまう可能性があります。

3 重度の障害を負った／家計の担い手が亡くなったときに対応できる

家計の担い手が、突然の事故や病気で障害を負ってしまったり、亡くなるなどしたとき、小さな子どもや配偶者はどうしたらいいでしょう。貯めてきたお金だけでは生活できない場合も考えられます。
こうした事態に備えるため、公的年金は障害を負った方や遺族への保障も行っています。